

**徳島県立農林水産総合技術支援センター
令和２年度 第１回外部評価委員会議事録**

日時：令和２年９月１日（火）

場所：農林水産総合技術支援センター 大会議室

１ 令和元年度外部評価の反映状況報告

<質疑応答>

●気象データについて

委員：直接露地野菜に結びつく、農業分野に対する気象データの把握等について、県の施設や取組みはあるのか。

回答：トンネルニンジンの場合、トンネル内にコンパクトな気象観測装置を導入し、それを農家が自分のスマートフォンで見られる技術の実証を進めている。

委員：農家のみなさんが、できたら無料で各地域の細かな気象データを見れるように対応するべきでないか。

回答：今年度から、国が提供している１ｋｍメッシュの気象データを利用してブロッコリーの生育予測をし、生育阻害の高温を軽減する技術開発に取り組むこととしているが、知的財産の関係で、今のところ、無料でそのデータを利用するということになっていない。

２ 普及指導活動の評価

○美馬農業支援センター

<質疑応答>

●労働力不足への対応について

委員：新型コロナによって農業に携わる方が少なくなっているというのは、外国人実習生が入国できなくなったことが原因か。

回答：管内の大きな農家は、外国人実習生を受け入れているので、日本人、障がい者そういった方の雇用を検討し始めている。そういった声を受けてＪＡでも取組をしている。

●スマート農業について

委員：スマート農業機器は、広い土地でないと導入効果が少ないのではないか。

回答：中山間地域でも活用できるように、小型のもので実演している。

中核的農業者や農業法人等に、「スマート農業」を先進的に導入し、作業受託により、小規模経営の支援につなげる。

○三好農業支援センター

<質疑応答>

●新規就農者について

委員：新規就農者が集まったりする機会とか、あと先輩農家さん達と会ったりする機会は、年何回くらいあるのか。

回答：昨年度は、新規就農者交流会というのを立ち上げ、その時は新規就農の方みなさんに声をかけて集まった。その後は、実施できていないが、必要に応じて、紹介したりとか集まってということをしたい。

●コロナ禍の影響について

委員：コロナ禍で、普及指導活動は影響を受けたのか。

回答：人を集めた講習会が開催しにくいということで、少人数で集まるというようなこととか、会議とかも制限され、なかなか実施できなかった。

●移住就農について

委員：新規就農者支援協議会に市町移住担当の方に入っていたということだが、手応えは？

回答：移住希望の相談は、結構あるようだが、これまで、農業と結びついていなかった。市町の担当者と情報交換し、就農に関する支援制度も含めて話をするのができ、希望者は何人かできた。

3 教育研修業務の評価

<質疑応答>

●本科の就農率について

委員：本科で就農率が40%という話だったが、農家の出身は何%くらいいるのか。また、アグリビジネスアカデミーで、新規就農につながった例があれば教えていただきたい。

回答：本科の農家出身者は、今年で4、5名。かんきつアカデミーの人材育成コースは、1年間かけて学んで必ず、就農するという流れになっている。

委員：定着率、離農されている方とかの割合を考えたときに、実際にその就農率というのは本当に新規の就農者を増やしているのか、底を支えているレベルなのかが重要で、実際のところどうなのか。

回答：農大生の場合、就職、就農しても、特に就職就農の場合は数年たったらやめてしまう事態もあるが、最終的な就農定着率については、把握できていない。

●農業機械安全使用者養成講座について

委員：受講者は増えているのか。ロータリーを付けての練習は実施していないのか。

回答：申し込みが大変多く、1回につき150人くらいの応募がある。ロータリーを付けての練習は実施していない。

●コロナ禍への対応について

委員：今年でコロナが終わるということではないので、本科生もアカデミーも、対応が必要ではないか。

回答：今年は、コロナ禍がいきなり始まったので、その場をしのいだのような状況であった。今後は、リモート学習等、環境を整備していく。